

全国震災学習部

（東京都・世田谷区）尾山台保育園ボランティア報告

2019年10月26日（土）

10月12日（土）～13日（日）未明にかけての台風19号によって多摩川が氾濫し、世田谷区尾山台にある、尾山台保育園の1階が浸水。階段2段まで水が来た。



尾山台保育園の方にお話を聞いた。

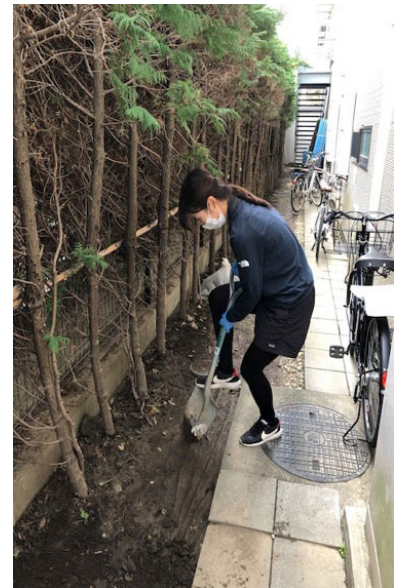
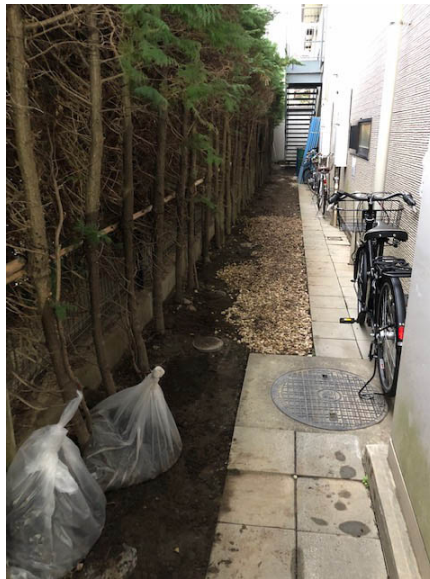
この地域は地形的に低い立地にあるため、以前から台風などがある時に、トイレなどの水回りの水位が上昇することがあったため、今回も事前に水回りをビニールで覆うなど、対策をしていたが、作業時に見てみたらビニールは吹き飛んでいたのも、下水の逆流のすごさを感じた。

次の日、日曜日には、職員、現役保護者、OB保護者の方々、卒園児の子どもたち、世田谷区の保育園の職員たちおよそ100人で、床の泥のかき出し、室内の清掃消毒、棚やおもちゃの洗浄、倉庫も水浸しになってしまい、その片付けもおこなった。絵本、積み木などは使い物にならず廃棄。ゴミ袋50袋以上出た。

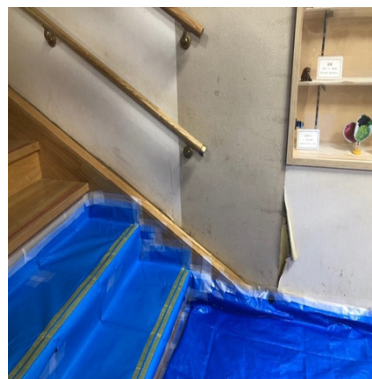
火曜日からの保育を再開したいが、1階の保育室が使えなくなってしまい、年長児を他園へ分散させるしかないと考えたが、区立の園が年長児全員を受け入れてくださり、年長組がバラバラになることは回避できた。他の組は2階での保育。給食室は浸水の為、給食は作れず、現在はデリバリーでの給食でしのいでいる。

東京保問研の神田・半田で10月21日（月）にボランティアに行った。

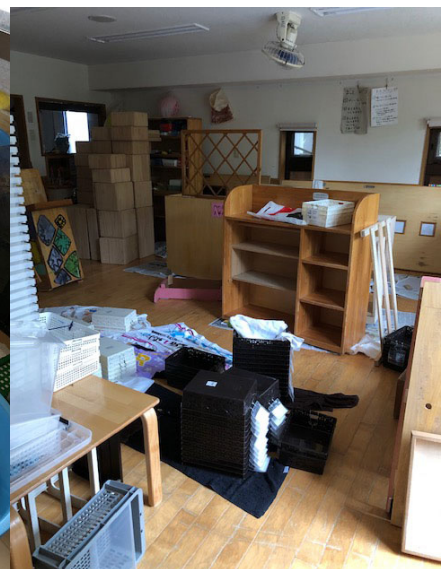
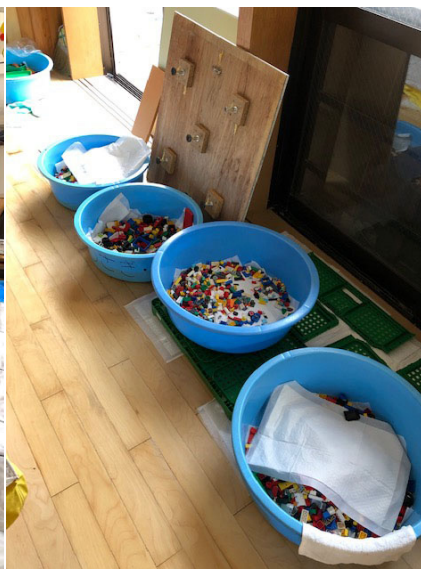
田園調布の高台は閑静な住宅街だったが、坂を下りて高低の低い地域に近づいたところになって、家具が外に出されている家屋を目にするようになり、歩いて五分と変わらない場所でこうも違いがあるかと感じた。



尾山台保育園では、浸水して使えなくなった布類のおもちゃ（お手玉・おままごと道具・衣装）の作り直しを午前中におこない、午後は、職員駐輪場に溜まったままになってしまった泥の取り除き作業をした。



被災から10日程経った今も、多摩川からの浸水と下水から逆流した汚水で汚れた、棚やおもちゃ、食器類の消毒が続いていた。区からは、消毒完了の目途は伝えられず、どうしたらいいのか戸惑っているとのことだった。子どもたちが2階に上がるまでの動線の床はブルーシートで覆うなどの対策もされていた。



次の日曜日（２７日）には、園庭の土を入れ替え、１１月に工事をし、１２月中にはどうにか園舎を元通りに復旧したいと考えているとのこと。

遠山園長は「被災したことはたいへんだけど、こうして知らない方々が気にかけて手伝いに来てくれて、人のあたたかさを感じることができ、ありがたいし、勇気づけられる」とおっしゃっていた。また、一緒に作業をしたある職員の方は「台風後の朝、いつでも出られるようにして園からの連絡を待っていて、９時に作業をすると連絡が来て、園に行ってみたら、これは大変だ・・・と思った」「大変なことだけど、子どもの声が聞こえてくると元気が出てくる」とおっしゃっていた。被災の中でも、子どもたちの存在は、大人の頑張る原動力になるのだと、自分自身も作業中の子どもたちの声や姿から感じた。



ボランティアが終わった後、すぐ近くの多摩川にも足を運んだ。川の流れによって流れてきた枯れ木や草、ドロが、水が引いた後も残っていて遠目からはいいように見えても、その場に行くと、泥に足を取られたり、野球場が使えるいほどフェンスに草が絡まっていたり、看板が押し倒されていたり、濁流だった時のすさまじさを感じた。

１０月２５日（金）には、全国震災学習部からも３名が尾山台保育園に行き、当時の状況などを教えていただいた。その内容も上記に加えて報告とさせていただきます。

（報告者・東京保問研・神田朋実）



